

2010, 野田亮採集; 5 ♀♀, 名瀬知名瀬, 31. VII. – 12. VII. 2011, 鈴木互採集; 2 ♀♀, 宇検村湯湾 (300 m), 14. IX. 2012, 野田亮採集; 1 ♀, 名瀬知名瀬, 10–15. IX. 2012, 鈴木互採集; 3 ♂♂, 宇検村湯湾岳の北部地域, 6. IV. 2013, 西野久雄採集; 2 ♀♀, 住用町三太郎林道, 8. IX. 2013, M. Nishi leg.; 1 ♀, 瀬戸内町阿木名由井, 22. III. 2014, 齊藤昌弘採集; 7 ♀♀, 住用町神屋住用ダム, 5–6. VII. 2014, 野田亮採集; 1 ♀ (Fig. 2), 住用町東仲間三太郎峠, 11. IV. 2019, 蟹江昇採集; 1 ♂ (Fig. 1), 名瀬, 12. IV. 2019, 蟹江昇採集. [徳之島] 3 ♀♀, 剥岳, 5. XI. 2012, 青木淳一採集. [沖縄島] 1 ♀, シコリ, 12. VI. 1975, 深町宗道採集. [石垣島] 1 ♀ (平滑隆起物非存在個体), オモト岳, 20. VIII. 1976, 五味玉樹採集. 1 ♀, オモト岳, 16. V. 1975, 深町宗道採集; 1 ♀, パンナ岳, 24. V. 1984; 1 ♂, 嵩田林道, 20. V. 1990, 花谷達郎採集.

文献図確認(4 ♀♀). [口永良部島] 1 ♀ (Holotype), Kuchinoerabu-jima Is., 29. VII. 1963, T. Kishii leg. (Kishii, 1964: pl. 2, fig. 1). [奄美大島] 1 ♀, 奄美大島, 19. VI. 1961, 芝田太一採集 (大平, 1970: pl. 2, fig. A). [徳之島] 1 ♀, 徳之島, 9. VIII. 1988, 楠井善久採集 (大平・楠井, 1990: fig. 2F). [久米島] 1 ♀, Mt. Ohtake, 17. V. 2000, M. Yagi leg. (Kishii, 2004: 168, fig. 1, ♂ [♀]).

#### 引用文献

- Kishii, T., 1964. Elateridae of islands Awa-shima, Hegura-jima and Nanatsu-jima. The snappers of islands (IV). Bulletin of the Heian High School, Kyoto, (8): 1–38.
- Kishii, T., 2004. A study on the click beetles collected by Mr. M. Yagi from Kume island in the Okinawa (Coleoptera, Elateridae). Entomological Review of Japan, Osaka, 59: 167–176.
- 岸井 尚, 2006. 細川浩司氏蒐集の邦産コメツキムシ. 地域甲虫自然史, (2): 1–89.
- 大平仁夫, 1969. 日本のコメツキムシ (II). 昆虫と自然, 4 (11): 25–31.
- 大平仁夫, 1970. 九州に産するコメツキムシ科の珍種 (7). 北九州の昆虫, 16: 61–64, pl. 2.
- 大平仁夫・楠井善久, 1990. 琉球列島小島嶼のコメツキムシ. 月刊むし, (23): 26–29.
- 大平仁夫・楨原寛, 2012. 奄美大島油井岳の異なる5林相区で捕獲されたコメツキムシ類について. 比和科学博物館報告, (53): 33–47.

(鈴木 互 211–0031 川崎市中原区木月大町 6–1  
法政大学第二高等学校生物科)  
(蟹江 昇 489–0837 瀬戸市西洞町 117)

#### 【短報】ミチコヒメハナハネカクシの西限記録

ミチコヒメハナハネカクシ *Omoplantia gyrophaenula* (Sharp, 1888) はハネカクシ科ヒゲトハネカクシ亜科のニセヒゲトハネカクシ族 *Hoplantriini* に属する, 体長 2 mm ほどの小型のハネカクシで, 現時点ではヒメハナハネカクシ属の日本唯一の種である (柴田ほか, 2013). 一見するとヒメハネカクシ族 *Athetini* やカレキハネカクシ族 *Homalotini* (特にツヤキノコハネカクシ属 *Gyrophaena*) に所属するように思えるが, 付節式が 4–5–5 であることや小顎肢の先端に擬節 (pseudosegment) を有し見かけ上 5 節に見えること, 雄交尾器中央片に “athetine bridge” を欠くなどで区別できる (Sawada, 1977; Seevers, 1978). また, ニセヒゲトハネカクシ族の他属からは付節式や中胸背板の形態, 中脚基節がほぼ接すること, 右大顎に明瞭な 2 小歯を有することで区別できる (Kishimoto, 2002).

本種は “Kurigahara” (碓氷峠の群馬県側に位置) においてジョージ・ルイスによって採集された標本に基づき, 当初はカレキハネカクシ属 *Homalota* に属するものとして記載された (Sharp, 1888). その後, 本種のタイプ標本の検討により, タイプが雌であることが示されるとともに再記載が行われ, 現在のヒメハナハネカクシ属に所属が変更された (Sawada, 1977). 2000 年代になって, 埼玉の秩父山地から多数が採集され, この時初めて雄が記載されるとともに, 夏期にヤマアジサイの花に集まるという生態が報告された (Kishimoto, 2002).



図1. ミチコヒメハナハネカクシ♂ (岡山県産). スケール: 1.0 mm.



図2. 生息環境. 中央のリョウブの花より採集された.

これら群馬県と埼玉県からの記録のほか、静岡県からも知られているが(静岡県環境森林部自然保護室, 2005), 現在まで本州以外からは発見されていない(柴田ほか, 2013). 中国地方ではこれまでいずれの県からも知られていなかったが, 筆者は最近になって岡山県において本種を見出したので, 次の通り記録する.

13 exs., 岡山県新見市神郷高瀬 (alt. 500 m), 28. VII. 2019, 筆者採集.

標本は筆者が保管しているが, 一部は倉敷市立自然史博物館および庄原市立比和自然科学博物館にて保管される予定である.

前述の通り四国・九州から知られておらず, これまで中国地方の各県からも記録が無かったことから, 今回発見された産地は現時点での西限となると考えられる.

今回得られたすべての個体は, オオヨツスジハナカミキリやアオハナムグリなどの甲虫類やアブやハエなどの双翅類, ハナバチ類などと共にリョウブのスイーピングによって採集されたものである. Kishimoto (2002) の例ではヤマアジサイから採集されていることを鑑みると, 本種は夏期に開花する様々な花を利用している可能性が示唆される.

最後になったが, 本種発見のきっかけとなった自然観察会を企画・運営された倉敷市立自然史博物館友の会のスタッフの皆様には厚くお礼申し上げる.

#### 引用文献

- Kishimoto, T., 2002. A redescription of *Omoplandria gyrophaenula* (Sharp) (Coleoptera, Staphylinidae, Aleocharinae). *Nabesania, Special Bulletin of the Japanese Society of Coleopterology Tokyo*, (5) : 221–226.
- Sawada, K., 1977. Studies on the genus *Atheta* Thomsom [sic] and its allies (Coleoptera, Staphylinidae). III: Japanese species described by the previous authors. *Contributions from the Biological Laboratory, Kyoto University*, 25: 171–222.
- SeEVERS, C. H., 1978. A generic and tribal revision of the North American Aleocharinae (Coleoptera, Staphylinidae). *Fieldiana Zoology*, 71: 1–289.
- Sharp, D., 1888. The Staphylinidae of Japan. *Annals and Magazine of Natural History*, (6) 2: 277–295, 369–387, 451–464.
- 柴田泰利・丸山宗利・保科英人・岸本年郎・直海俊一郎・野村周平・Volker Puthz・島田 孝・渡辺泰明・山本周平, 2013. 日本産ハネカクシ科総目録(昆虫綱: 甲虫目). 九州大学総合研究博物館研究報告, (11) : 69–218.
- 静岡県環境森林部自然保護室, 2005. 静岡県野生生物目録. 198 pp. 静岡県, 静岡.

(千田喜博 727-0301 庄原市比和町比和 1119-1 庄原市立比和自然科学博物館 気付)

#### 【短報】コルリアトキリゴミムシをアカバナカミナリハムシの集団より多数採集

コルリアトキリゴミムシ *Lebia (Lebia) viridis* Say, 1823 は北米原産のジュウジアトキリゴミムシ属 *Lebia* の小型種(体長は, 前頭から翅端までの長さが, 手元の標本で 3.3 ~ 4.2 mm) で, 体色は全体が黒色で黄緑色から青緑色の金属光沢を帯びる. わが国では 1980 年代後半より関東地方を中心に記録され, 現在は西日本でも生息が確認されている(中根, 1989; 吉田, 2019 ほか). アトキリゴミムシ類は一部の種でチョウ目やコウチュウ目等の種を好んで捕食することが知られているが, 本種についてもカミナリハムシ属 *Altica* の種との関連が示唆されており, 後で記すようにいくつかの観察例がある. 筆者は埼玉県の平野部において, アカバナカミナリハムシ *Altica oleracea* (Linnaeus, 1758) の集団周囲から多数のコルリアトキリゴミムシを採集したので報告する. 採集個体のデータは次の通りである.

13 ♂♂ 7 ♀♀, 埼玉県川越市安比奈新田安比奈親水公園, 4. VIII. 2019. 筆者採集・保管(図 1).

採集地は埼玉県南東部に位置する入間川河川敷内で, 環境はグラウンドやテニスコート等の運動施設周辺に芝生と河川林が広がり, 砂利敷きの駐車場脇には小川が流れ, その対岸は小規模の斜面林となり, 多くの昆虫類が生息する(図 2). 小川の水辺周辺の



図 1. コルリアトキリゴミムシ.



図 2. 安比奈親水公園の生息環境.